

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192800074		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア人間グループホーム		
所在地	埼玉県入間市宮前町9-2		
自己評価作成日	平成28年12月9日	評価結果市町村受理日	平成29年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=1192800074-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	平成28年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街にあり静かな環境の中、落ち着いた生活を送ることが出来ている。また、開設して2年経過し近所の方々からお散歩笑顔で挨拶して頂くことも度々ある。ご近所さんとしての繋がりが少しずつ持つことが出来ている。また、ボランティアの参加も増え三味線や三線、傾聴ボランティアを導入し、入居者様が外部の方との交流を持てるよう支援している。認知症の方が少しでも楽しさを実感して頂ける様、レクリエーションや体操、お散歩、お買い物を行っている。特にヤクルトやパンの移動販売は、自分でお金を持ち買い物をする日常生活を少しでも実感して頂ければと思いながら行っている。そして、それに関わる業者さんも親切で、どんなに時間がかかることがあっても笑顔で対応して頂いている。ご入居されている方々のケアは職員が行っているが、社会資源を活用しながら楽しく自立した生活が出来るよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西武池袋線 入間市駅より徒歩15分程にある2ユニット、定員18名のグループホームである。閑静な住宅地にあり、ホーム隣の公園は日当たりも良く、入居者の憩いの場となっている。開設して2年経過し、近隣住民との付き合いに力を入れ、自治会に加入し地域の消防訓練や秋の芋煮会等に積極的に参加し、顔馴染みの関係づくりに努めている。日常的に散歩に出掛け、地域の方たちと挨拶を交わし話をしたり、お裾分けをいただいたりと、触れ合う機会が増えてきている。また、ヤクルトやパン等の移動販売を受け入れ、買い物は日常の生活の楽しみになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの時に、必ずグループホームの理念を唱和している。また、理念に基づいた介護をケアプランに取り組み実施に繋げている。	支援が業務的になっていないか、職員中心の生活になっていないかどうか、日々の申し送りで理念に照らし合わせ振り返りを行い、具体的な支援方法について確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員として、地域の行事に参加している。また、職員もご近所の方と顔なじみになっており、散歩の時やホームのベランダで洗濯物を干していると挨拶していただくことも多い。	地域の年2回の消防訓練や秋の芋煮会等、積極的に参加している。地域の人達と顔馴染みになり、散歩等に出掛けると挨拶を交わしたり、お裾分けを頂いたり、触れ合う機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム連絡会を行い、グループホームを知って頂ける様活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご入居様の日頃の様子やホームでのインシデント、アクシデントの報告を行い、地域包括やご家族様の質問やご要望にお応えしている。	2ヶ月毎に開催し、ホームの現状を報告し合い、参加メンバーから意見を頂いている。出された意見に回答し、地域や家族と協力して行く関係づくりができ、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険上不明な点があれば、高齢、福祉課に連絡をとっている。また、事故発生時は速やかに報告を行いアドバイスを頂いている。	運営推進会議に参加頂き、ホームの現状を知って頂いている。認定更新の機会等に市の担当者にホームの相談事項等を伝え、アドバイスを頂く等、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスを行い、身体拘束を行わない介護を共通認識をしている。	年1回、本社で研修を受け、正しい理解に向けた取り組みをしている。身体拘束を行わない介護を日々ケアに照らし合わせ、1人ひとりのその日の気分や状態を職員で共有し、自由な暮らしが出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様に対する言動や接しかたに職員の言動に注意を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修の実施を予定しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	予め契約に有する時間等説明し、ゆっくり丁寧に対応している。不明な点はないか、確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に関わる事は、ご家族様に適宜電話やメールを行い了解を頂くようにしている。	家族には運営推進会議開催の案内の際にハガキを同封し意見を頂けるようにしている。また面会時等にも声掛けをし、話しやすい雰囲気作りに留意している。出された要望等は連絡ノートで共有し業務に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	予め年度計画や個別の目標設定の中で、職員の意見を聞いている。また、ミーティングを行い職員主導で運営できるよう心がけている。	職員とは年度初めと年度末に意見を聞く機会がある。日常的には、定期的なミーティング時や必要に応じてその都度何時でも管理者が話を聞く等、コミュニケーションを密に図るよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の出勤状況、勤務態度、実績を把握し上長に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内のe-ランニングや研修を行っている。また、経験の浅い職員には、実務記録を書いてもらいスタッフからアドバイスや励ましのコメントを書いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入間市内のグループホームの代表が集まり、話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お一人お一人の人柄を理解することに努め、表情や言動からも気持ちを察している。また、ご家族様からアドバイスを頂き、ケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際ご家族様のニーズを把握し、改善できるよう努めている。また、職員共々笑顔で挨拶し、話やすい環境に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを行い、ご入居様が望む生活をケアプランに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係を構築し、屈託なく話し合える関係を築くようにしている。また、日頃より職員からご入居様に感謝の言葉を伝えている場面がよく見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をご家族様にもお話しし、家族の関わり方をアドバイスしている。また、ご入居様とご家族様が共に過ごす時間持てるよう、面会や外出の時間も調整している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会やご自身が行事にしていた外出を継続して行って頂いている。また、居室でゆくり家族水入らずで過ごせるような雰囲気を作る。	入居前と変わらず友人、家族等と気楽に会えるよう、家族と協力して面会、外出、外泊がスムーズに出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の配慮で皆で楽しめる話題を提案したり、レクリエーションを行う。また、入居者様同士のコミュニティを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方も、必要時体調の変化がないか電話を入れている。また、入院中の方のお見舞いに出掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の押し付けでなく、「ありのままで…」の気持ちで接している。	一人ひとりの生活サイクルを大切に考え、職員同士で話し合い、本人が何をしたいのか言葉や表情から推し測り、確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの情報やご家族様からの情報、また、地域包括等利用して情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、ご自身の生活パターンや出来る事出来ない事の把握に努めている。また、職員間でも適宜情報の交換を行い、ご自身の自立支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの振り返りを行い、適切なケアプランが実施できたか確認している。カンファレンスを行い現状に即したケアプランの作成に努めている。	本人や家族の意向を聞き、プランに反映させるようにしている。職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、現状に即したプラン作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やその他の生活に関わる記録を、漏れの無いように注意しながら記入している。気が付いたことや改善が必要なことはフォローミーティングを行い介護実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度職員と相談して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事参加、地域のボランティアやパンやヤクルトの販売によるお買いものを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時は主治医や連携病院の受診が速やかに出来ており、適切な医療の提供が出来ている。	入居後も本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は基本的には家族対応となっているが、緊急時等、家族と相談し職員が代行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックを行い、ご入居様の変化があれば主治医に報告している。介護職員に必要なケアの説明や指導をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーや看護師、リハビリスタッフとカンファレンスやアセスメントを行い、その方の即した対応をしている。必要時ナースサマリーを作成し病院にお渡ししている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族様に説明はしているが、まだ実施には至っていない。	契約時にホームが対応し得る範囲のケアについて説明を行っている。変化に応じて、本人や家族の意向を早い段階から話し合い、随時意思確認をしながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示を行っている。適宜報告連絡は出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回行っている。ご家族様で参加して頂いた方もありました。地域の方の協力は得られませんでした。今後も協力依頼は行って行きたい。	年2回、入居者と共に併設小規模多機能事業所と合同で避難訓練を行っている。地域との協力体制については自治会を通じて参加を呼びかけているが、まだ実現していない。次回は2月を予定している。	開所2年目で地域との交流を構築中であるが、万一に備え避難訓練等を協力を得ながら実施するために呼びかけ等を工夫し、地域住民に参加頂ける事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの中にもご本人の意思を確認しながら実践している。また、その方の人柄やこれまでの社会的役割を知りコミュニケーションに活かしている。	一人ひとりの生活スタイルを尊重し、好みや習慣等を優先している。日々のケアの中で言葉掛け等、不適切な対応等に気づいた時には職員同士で注意あっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを心がけ、ご本人の意志を尊重している。ご本人の気持ちに寄り添った介護を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にならないよう、注意しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みや趣味を尊重し、機能性だけを優先しない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の業者を変更し、メニューに変化をもたらした。また、職員の手間はかかるが、味も見た目もおいしくした。季節により外食や外の公園で昼食をとったこともある。	ホームの菜園で採れた野菜を使って一緒に皮むきをする等、出来ることを手伝って頂き、3食手作りで提供している。近隣の公園でお弁当を食べたり、外食に出掛ける等、入居者と職員と一緒に楽しく食事が出来るよう雰囲気作りを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者より食材が届き、職員が調理をしている。個々の体格や性別、年齢、嚥下状況に応じて量や形態を調整している。一人一人水分摂取量を確認し、少ない方には声掛けを行っている。また、適宜ジュース等甘い飲み物をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科が月に2回訪問している。歯磨きがうまく出来ない方には、職員が磨き直しをしている。また、お話や歌を唄うことで「唾液が良く出ている」と、訪問歯科の医師から話があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を把握し、適切なオムツやパットを使用する様にしている。必要な方には見守り、声掛けにてトイレ誘導を行い、気持ちよく過ごしていただけるよう配慮している。	排泄チェック表を使用し、個々に時間を見計らって声掛けし、トイレで排泄できるように支援している。個々の習慣は職員で情報を共有し、紙パンツやパット等、本人に合わせた対応を常に検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔を把握し、水分の摂取を促したり、腹部のマッサージを行っている。必要時主治医に相談し頑固な便秘な方には内服による調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴をして頂いている。夏場汗をかく時期はご本人の希望により回数を増やす場合もある。入浴を嫌がる方には、対応の工夫を行い入浴して頂けるよう努めている。車いすの方や、歩行の困難方にはリフトの浴槽を使用している。	基本的に週2回の入浴だが、その日の状況に応じ、時間を問わず対応している。一人ひとりの状態に合わせて気持ち良く入って頂けるよう、リフト浴にしたり、声掛け等を工夫し、楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間はご本人の意志に任せている。ゆっくり休んで頂けるよう、おふとんの調整を行っている。なかなか寝付けない場合は、暖かい飲み物を提供したり、おしゃべりをしたりして様子を見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を理解し、確実に内服して頂けるよう工夫をしている。また、体調の変化に応じ看護師に報告し、適切な与薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の得意なことや出来ることを参考にして、ホームでの役割を果たして頂いている。習字やお料理、大工仕事等。また、コーヒー好きな方もおりドリッップコーヒーを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日はお散歩や隣の公園で日向ぼっこしながらおしゃべりを楽しんでいる。ご家族様の希望により外出をされている。また、施設のお買い物や郵便局にお付き合いして頂く等社会との関わりが持てるよう支援している。	日常的に近隣や隣接する公園に散歩に出掛けたり、職員と共に買い物等に出掛けたりしている。長距離の移動が身体的に難しい方が多くなっているが、家族の協力で外出や外食等を楽しんで頂けるよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身のお金は金庫に管理しており、必要時お出ししている。パンの販売やヤクルトの販売の際はご自身で精算をして頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話で、ご希望により取り次いでいる。手紙のやり取りについては、ご自分から手紙を書きたいという要望は聞かれないが、今回クリスマスカードを書いて頂くことを検討中です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の写真を貼っている。時期に合った飾りを行い季節感を感じて頂けるよう工夫をしている。清掃を行い清潔な環境を心がけている。	リビングの飾り付けを入居者と共に作った作品で季節を感じて頂いている。居心地良く過ごせるよう、入居者と相談しながらリビングの席を決めたり、個々に配慮した環境づくりに工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の人柄や日頃の様子をみて、席を工夫している。廊下にベンチイスを置き静かな場所を確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真やテレビを設置して頂き、ご自身のお部屋としてゆっくりすごして頂けるよう支援している。馴染みのある物を置いて頂き、安心して頂ける様工夫している。	本人と家族で自由に部屋をレイアウトして頂いている。テレビやソファ、写真等、馴染みの物を持ち込んで頂き、それぞれが居心地の良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓を心がけ、安心して過ごして頂けるよう支援している。また、ご自身で出来る清掃や片づけはお手伝いをお願いしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の消防訓練を行っているが、地域住民の方々の参加協力を得られていない。職員やご家族様だけの活動になっている。	火災や震災等の災害時、速やかに消防各所に連絡が取れ、速やかな誘導が出来る。また、地域の方々の協力を得、入居者様の安全確保が出来る。	①地域の集まりに参加し、なお一層、施設について理解して頂く。 ②地域包括や自治会の方々に施設行事をお知らせし、参加を呼び掛けていく。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。